

くらき永田保育園便り



18名の子どもたちが保育園を卒園していきました。堂々とした姿で卒園証書を受け取り、自分たちが作詞作曲した想いでの歌を大きな声で歌う卒園児たちの姿に保護者も職員も涙が止まりませんでした。テレビや新聞では耳を塞ぎたくなるようなニュースばかりですが、くらき永田保育園からは今年度もたくさんの楽しい保育を展開していきたいと思います。

さて、今月から、新しいお友達11名が新たに保育園の仲間入りをしました。子どもだけでなく、保護者も職員も一緒になって保育を作り上げるくらき永田スタイルを大切にしていきたいので、保護者の皆さんもどんどん保育に「参加・参画」してもらえると嬉しいです。

令和7年度は・・・

くらき永田保育園の一年のスタートは参加率90%を誇る『保育計画説明会とクラス懇談会』です。今年度は4月12日(土)午前中に対面型の全体懇談会を開催します。一昨年「こども家庭庁」が発足し「こども基本法」が施行されましたが社会はまだまだ「こどもまんなか」マインドにはなっていません。くらき永田保育園では、行事だけでなく、日々の暮らしの中で子どもの参加・参画、そして、子どもの意見表明を大切にするためにどのような保育を行うかお伝えしたいと考えています。また、クラスの先生からの保育方針やお楽しみポイントをお伝えするだけでなく大人同士の交流も深めていきたいと思います。

さらに今年度も絵本の世界を楽しみたいと考えています。絵本のある暮らしがどれほど親子にとって素敵な時間なのかをこどものとも社の方に語ってもらう時間も用意しています。こちらもお楽しみに。

卒園児の子どもたち

保育園が「おおきなお家」として機能していることを一番実感できる瞬間は卒園児が保育園に遊びに来てくれる時かもしれません。3月にはたくさんの小中学生が卒業証書を手にもって成長した姿を見せに「実家」に戻ってきてくれました。スマホの中には卒園した12年前の写真が入っていて、それを見ながらの思い出話が出来ることが幸せを感じました。また、このところ地域の高齢者の人だけでなく、卒園児がボランティアとして保育園に来てくれることが多くなっています。子どもと遊んでくれるだけでなく、園庭整備、おむつたたみ、遊具の修繕などのお手伝いをしてれています。頼もしさを感じる一方、ポロっと今感じている悩みなど口にしてくれる瞬間があります。この時代、人生でつまづかない人などいません。でも、そんな危機の分岐点に立った時に理解してくれる人がいるかないかで、こどもの踏み出す一步は全く違ってくるのでしょう。いじめや少年犯罪などの話が嫌でも耳に入ってくる時代ですが、わたしたち大人が目の前の子どもたちをどれだけ受け止め、支えられるのか？自分に問いかけずにはいられません。「三つ子の魂百まで」のごとく人格形成期の「今」は後からは取り返せません。楽しい報告だけでなく、困ったときにSOSを言っても大丈夫な保育園、困ったときに頭に浮かぶ保育園であり続けたいと思います。